

とくしまの Education of Tokushima 教育

2005 No.407

発行 ■ 徳島県教育委員会
平成17年10月

10月

Contents

教育長からのメッセージ	1
教育の日について	2
個人情報の保護について	3
学校紹介・由岐中学校	4
学校紹介・中枝小学校	5
文化の森15周年記念事業について	6
埋蔵文化財センター10周年記念事業について	6
地域別学力向上フォーラム	7
四国ジュニア環境サミット	7
次長室より～山川次長～	8
徳島再発見(箸蔵寺)	8
新教育委員長の紹介	8
新教育委員の紹介	8
教育ふれあい懇談会	8

『教育は人づくり』 その要となるのが教職員です。

徳島県教育長 佐藤 勉

教育長に就任して半年、学校教育に対する県民の皆さんからの期待の大きさを感じる毎日です。

徳島県の子どもの学力については、徳島県基礎学力調査等の結果、読解力、学習意欲、学習習慣等の課題が明らかになっております。

県教育委員会では、学力向上の実現に向けての取り組みを進めていますが、特に本年度は、初めて県下3ヶ所で「地域別学力向上フォーラム」を開催し、私もパネリストとして意見を述べたところです。また、「学力向上検討委員会」も設置し、具体的な学力向上策について検討を進めています。

『教師は授業で勝負する。』

一人ひとりが教育のプロとしての自覚を持ち、よくわかる授業・学習意欲を高める授業を心がけ、子どもたちにわかる喜びや学ぶ楽しさを実感させなければなりません。そうすることによって、子どもたちに自ら学ぶ意欲が湧いてくるのです。さらに、与えられた研修の機会のみならず、お互いが切磋琢磨しながら主体的に研鑽を積み、より確かな教科の指導力をつけなければならないと思います。



言うまでもなく、教師は子どもたちにとって大変大きな存在です。私たちはその責任の重さを強く感じるとともに、子どもたちの笑顔を喜びとして、その限らない可能性を信じ、認め、誉め、励まし、能力を引き出し、伸ばすという使命があるのです。

『保護者や地域との連携の中で』

今、学校は、社会の急激な変化や多様化する子どもたちを前にして、さまざまな問題を抱えています。これらを学校だけの問題として捉えるのではなく、学校と保護者や地域が一体となって、共に子どもたちを育てていくという視点に立つことが大切です。

私たちは、保護者や地域の方たちの期待に応えるような教育の成果をあげなくてはなりません。そのためにも、幅広い情報発信を心がけて欲しいと思います。さらに保護者や地域の協力体制が得られるような、人間的な繋がりも大切にしていきたいと思います。

『百の施策より、一人の教職員』

子どもたちが規範意識や社会性を備えた心豊かでたくましい人へと成長するためには、教職員自身が社会人としての規範を示さなければなりません。

私の好きな言葉に「百の施策より、一人の教職員」と言うのがあります。この言葉に込められた思いを今一度考えてみてください。

そして、今こそ、教職員の熱い思いと指導力を結集させ、ともどもに子どもたちに21世紀を生き抜く確かな学力をつけていきたいと思います。

～はぐくみの心が拓く 未来とくしま～ 平成17年度とくしま教育の日(教育週間)実施事業について

本県では、県民の皆さんが教育について考え、理解を深めていただき、本県教育の充実と発展の契機となるよう、11月1日を「とくしま教育の日」とし、11月1日から7日までを「とくしま教育週間」とした県条例が昨年3月31日から施行されています。

この「とくしま教育週間」を中心とした期間（10月～11月）には、各教育団体や学校等の協力のもと、学校・家庭・地域社会のつながりがより深まるよう学校行事や社会教育事業などの様々な教育関係事業を実施することとしています。

取組み2年目となる平成17年度については、「とくしま教育の日」である11月1日に昨年オープンした「県立総合教育センター」を活用した事業をはじめ、学校におけるオープンスクール、文化・芸術、スポーツ関係事業、子育て・生涯学習関係事業など、県内各地で実施される事業総数は、639事業となっています。

いずれの事業も、保護者や地域住民の方など県民参加型の事業として実施されるものであり、教育関係者はもとより、多くの皆さんの参加がいただけるようお願いします。

平成17年度とくしま教育の日(教育週間)実施事業の概要

徳島県・徳島県教育委員会 主催事業

- とくしまの教育を考えるつどい(11/6 総合教育センター)
広く教育を考える機会として講演会を開催するとともに、徳島県藍青賞の表彰式を行う。
- 徳島県高等学校総合文化祭(10/9～11/27 県郷土文化会館ほか)
文化庁活動に取組む県内高校生が、演技・演奏、作品展示、競技等を実施。
- 高校生産業教育交流展(11/12～13 総合教育センター)
専門・総合学科等の高校生が、食生活・環境・福祉等の研究成果を発表・展示。
- 特別支援教育講演会(11/23 総合教育センター)
自閉症の子どもへの関わり方・支援の在り方等について講演会を開催する。
- 生涯学習「とくしま県民カレッジ」推進事業(11/1 総合教育センター)
講座受講の方に対して奨励証の交付式を行うとともに、記念講演会を実施。
- 徳島県スポーツ・レクリエーション祭(11/3 鳴門総合運動公園ほか)
県民の「一人1スポーツ」の実現を目指し、スポーツの祭典を実施。
- 埋蔵文化財総合センター10周年記念シンポジウム(11/3 総合教育センター)
「地域に未来を与える文化財」をテーマにシンポジウムを開催。
- 博物館、美術館等の無料開放(11/1～7 文学書道館、文化の森各館)
教育週間の期間中、小・中・高校生について常設展、企画展とも無料開放。

関係団体 主催事業

- 教育関係団体等
 - ・ 子育て支援研修会、学校・家庭・地域の連携をテーマとした講演会の開催など。
 - ・ 地域での子育て支援として、未就学児向けの歌・遊戯・工作教室などの開催。

青少年団体

- ・ 青少年等を対象にした自然体験活動・文化体験活動、また、指導者研修を実施。
- NPO、ボランティア等民間団体
 - ・ 幼児児童生徒等を中心に、様々な交流・体験活動や子育て支援活動を行う。

県立学校 主催事業

- 学校公開・公開授業・学校開放講座(オープンスクール)
開かれた学校づくり促進のため学校を公開、また文化講演会、農業講座等を行う。
- ボランティア活動
地域の環境美化活動や環境保護活動、高齢者との交流活動など。
- 他校種との交流会
高等学校、障害児教育諸学校、小・中学校との間で、交流学習会などを実施。
- 学校祭、意見発表会、作品展など
学校祭を一般公開するほか、学習活動の成果物の展示販売、また人権意見発表会等を実施。

私立学校 主催事業

- 公開授業、子育て講座、園児作品展、バザーなど。

市町村・市町村教育委員会 主催事業

- 学校公開、公開授業等(オープンスクール)
- 環境・ボランティア活動
 - ・ 学校周辺での地域清掃活動(クリーン作戦)の実施など。
- 野外活動等
 - ・ 親子オリエンテーリング、農業体験など。
- 他校種、他校等との園児・児童の交流
- 子育て支援・子どもの健全育成
 - ・ 子育て講座や講演会、家庭教育学級の開催など。
- 人権教育研究大会等の開催
 - ・ 地域住民を対象とした人権教育講演会の開催など。
- 文化、芸術、スポーツ関係の事業の実施

上記は、各事業の概要を取りまとめたものであり、詳細につきましては、徳島県教育委員会ホームページに掲載しています。

個人情報の保護について

コンピューター等の目覚ましい発達により、情報が大量かつ広範に処理できるようになり、大変便利になった反面、本人の知らないところで個人の情報が取り扱われたり、誤った個人情報が取り扱われるなどの問題が起きています。

このような個人情報の不適正な取り扱いによる個人の権利利益の侵害を防ぐため、徳島県においては平成15年1月より「徳島県個人情報保護条例」が施行されています。また、平成17年4月からの「個人情報の保護に関する法律（個人情報保護法）」の施行に伴い、民間事業者も含め、個人情報の適切な取り扱いがより一層求められています。（図1参照）

県立学校の学校現場においても、「徳島県個人情報保護条例」に基づき、次のとおり個人情報の保護が義務づけられています。（なお、市町村立学校においては、各市町村の「個人情報保護条例」が適用されますのでご注意ください。）

①収集の制限

個人情報を収集するときは、収集の目的を明らかにし、その目的の範囲で適正な方法により、原則として本人から収集しなければいけません。

ただし、思想、信条、身体状況に関する個人情報及び社会的差別の原因となるおそれのある個人情報は原則として収集してはいけません。

②利用の制限

個人情報は、原則として収集した目的のため以外には利用してはいけません。

③適正な管理

個人情報が漏洩したり、滅失したりしないように適正な管理に努めなければいけません。また、保有する必要がなくなった個人情報は、確実かつ速やかに廃棄する必要があります。

④個人情報の開示請求、訂正請求及び利用停止請求

保有する個人情報については、本人から情報の開示を求められたときは、開示する必要があります。また、開示した個人情報の内容が事実でないときは、訂正や利用停止を求められることがあります。

⑤罰則規定（平成17年4月より）

職員や職員であった者が、保有している個人情報を自己若しくは第三者の不正な利益を図る目的で提供・盗用した場合、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金が課せられます。（その他にも罰則規程有り）

以上のように、個人情報の取り扱いについては厳しく規制されています。

ただし、個人情報を意識するあまり、業務に支障をきたすほど過剰反応になる必要はありません。学校の適正な業務のために、生徒や保護者本人から収集する等、適切な方法で情報を集め、それを本来の目的のために使用することは、適正に管理されている限り問題はありません。

条例の施行から2年以上が経ち、個人情報に関する意識も高まり、各学校においても個人情報の保護について、十分な取り組みがなされていると思います。しかし、現在も、個人情報を安易に校外に持ち出し、盗難に遭ったり、紛失したりする事件が多く報道されています。個人情報の管理については、特に、教職員一人一人の毎日の意識や行動に依るところが大きいと言えます。個人情報は原則として学校外に持ち出さない、持ち出す場合は必ず学校長の許可を得るなど、厳重な管理の徹底が必要です。もう一度、皆さんの業務に関わる個人情報について、適切に管理されているか見直していただきたいと思います。

個人情報とは、氏名、住所、生年月日、学歴、財産状況、身体状況、思想、信条など特定の個人が識別できる情報です。

徳島県個人情報保護条例等の詳しい内容については、徳島県のホームページをご覧ください。

（図1）

個人情報保護法

民間事業者
私立学校 等

行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律

国の行政機関
国立学校 等

県個人情報保護条例

県の行政機関
県立学校 等

市町村個人情報保護条例

各市町村の行政機関
市町村立学校 等



由岐中学校

安心して学べ力をつける学校づくりを目指して

由岐中学校は、中学校で分校をもつ県下で唯一の学校です。阿部分校は阿部小学校と、伊座利分校は伊座利小学校と、それぞれ同一の校舎で小中学生が共に学んでおり、地元では阿部校、伊座利校として親しまれています。

阿部校では本年度の全国へき地教育研究大会徳島大会の研究指定校として「伝え合う力 認め合う力 輝く阿部っ子」を目指して果敢な教育実践が行われています。

伊座利校はたびたびマスコミで報じられているとおり、地域と学校が密接な連携を図った教育が実現されており、平成17年度からは「コミュニティスクール推進事業」の研究指定校として、その営みにさらに磨きをかけようとしています。

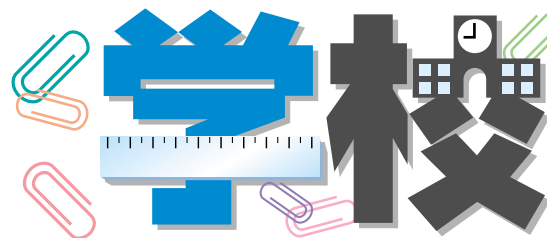
ここでは、由岐中学校本校の取り組みを紹介します。

本校の朝は、野球部、テニス部、音楽同好会の早朝練習から始まります。現在の1・2年生は全員が部活動に属しており、朝夕健気な練習を続けています。部活動を通した人づくりが由岐中学校の一つの核となっています。

8時05分からの20分間、「視写」の活動を行います。昨年度までの基礎学力定着化プロジェクト事業の財産で、生徒全員が新聞のコラム欄（全国の新聞コラム欄から中学生に適したものを選びルビをふって印刷したもの）を書き写します。まず読んで全体を把握し、その後、書き写すという営みを続けています。基礎学力の根幹に関わる日本語の読み書き理解能力を高めるためのもので、「朝の読書」に対抗した本校独自の取り組みです。



「視写は精読の一方法!」



9月の体育祭直後には生徒会主催の全校ミーティングをもちます。3年生からは、後輩を引っ張っていく責任感やプレッシャーを感じたことなどが話され、1・2年生にとっては次は自分たちの手という決意を固める好機となっています。一つのことを成し遂げた達成感が爽やかな言葉となって様々な発言が続き、自然な形で、自分を生かし仲間を大切にするという生き方を学んでいきます。一昨年度の郡人研大会の財産の一つです。

2月には、総合的な学習の時間で取り組んだ2年生の手による入学説明会を実施しています。様々な工夫をこらしたプレゼンテーションがあり、説明することで由岐中学生としての自覚も高まる良い企画です。



「お姉さん風を吹かすのもまたいい!!」

本校といえども全校生徒85名、子どもたちは総じて何事に対しても真面目に取り組み、問題行動も少なく、私たち教職員の取り組み次第で子どもの力をつけることができる条件に恵まれた学校です。そこで私たちは「つけるべき力」を仮説し、その実現に向かって試行錯誤を繰り返しています。本年度は重点目標を「自己発揮でき覇気のある生徒を育てる。」（あいさつ、発表・反応、コミュニケーション力、行動力）と定め、全ての教育活動がそこに向かって収束するように、各パートで具体的な動きをつくることを目指しています。

生徒会活動スローガン「自分らしい花を咲かせよう素晴らしい仲間と共に」の実現のために。



中枝小学校



ふるさとに学び、心豊かな子どもの育成を目指して

10月13日～14日、第54回全国へき地教育研究大会徳島大会が開催されます。研究主題は、「ふるさとに誇りを持ち、新しい時代を拓く心豊かな子どもの育成」とし、全国各地のへき地校の取り組みが紹介され、研究・交流を深めます。「へき地教育は教育の原点」と云われる理由は、子どもと教師が温かい人間関係を築き、子どもに寄り添い学びを丁寧に見取り、きめ細かな指導により、「わかる授業」を展開し、確かな学力を身につけるとともに、豊かな自然や地域の人々とのふれあいをとおして、ふるさとを愛し、自尊感情をはぐくみ、思いやりの心や他人の人権を尊重する豊かな心をはぐくむところにあると考えています。本校でも、今年の徳島大会を契機として、教育の原点に戻り、全国のへき地校が積み上げてきたものに学び、研修を深めていく機会とします。本校の課題は、へき地・小規模・複式という三つの特性から、メリットを生かすとともに、デメリットを交流学习で補うことだと考えています。

さて、本校を紹介する場合、今年5月に「ドイツさん」を出版され、今も児童文学の執筆にご活躍の原田一美先生の「ホタルの歌」を抜きに語れません。かつて、本校で勤務された原田一美先生のご指導のもとで、昭和42年、6年生児童ホタル研究クラブが、「ゲンジボタルの卵と幼虫について」と研究主題を設定し、ホタルの研究に地道に取り組み、科学体験発表会で県、四国でも優秀賞を受賞しました。山あいの子どもたちを愛し、自分やふるさとに自信と誇りを持たせた教師と子どもたちの心温まるふれあいが描かれています。この著書は、地域の人々に美郷のホタルが地域の誇り・宝であることを改めて確信していただくとともに、そのことを世に発信する契機ともなりました。この作品の中で貫かれている「やればできる」という精神や郷土に対する誇りは、今も中枝校の教育の原点ととらえています。このことを大切に、現在も各教科の学習では、きめ細かな指導により、確かな学力の定着を目指すとともに、ホタルを守るための水質調査や環境学習などの自然体験や地域の方々とのふれあう社会体験、

さらに、本校の音楽科担当の教師が創作した中枝太鼓も継承しています。

児童会活動では、朝会の進行、手話をしながらの校歌斉唱、さらに給食・放送委員会の放送や高齢者の方々との社会体験の計画等、あらゆる機会をとおして、話し合ったり、人前で発表したりする機会を設けています。また、国語

の読解力や語彙の獲得などの基礎基本の定着をめざした国語科の指導や全校読書も実施しています。きめ細かな指導ができたり、一人ひとりが



「表現力を高める国語学習」

りが主役となって活動できたりする少人数ならではのメリットを生かしながら、表現力をつけ、コミュニケーション力等の社会性の基礎を養うように工夫しています。

また一方、少人数のデメリットを補うための交流学习は、隣接の種野幼稚園、種野小学校、美郷中学校の校長先生をはじめ諸先生方の理解と協力により、あらゆる機会に交流していただいています。修学旅行や宿泊学習をはじめ、美郷幼・小・中連合運動会や吉野川市小学校音楽発表会の合同練習、美郷マラソン大会、美郷学校文化祭、学



「ふれあいサロン交流会」

校保健委員会等での交流をとおして、自主性や社会性を身につける機会としています。

少子・高齢化が急激にすすむ中で、ふるさとの方々から愛されていることに感謝し、やればできるという自信や自尊感情をはぐくみ、ふるさとを愛し、胸を張って堂々と生きる力をつけさせたいものです。今年の全国へき地教育研究大会を機に、地域の豊かな教育資源を生かすとともに、教育委員会をはじめ、家庭や地域と連携を深め、今後なお一層地域に開かれた信頼される学校づくりを目指して取り組んでいきたいと考えています。

文化の森開園15周年記念企画展 ふるさと再発見 —15の人・もの・場所—

文化の森総合公園の15周年を記念して、図書館・博物館・近代美術館・文書館・二十一世紀館が共催で、徳島ゆかりの15の人・もの・場所を紹介する企画展を開催します。知っているようで知らないもの、意外な一面があるものもあるはずです。この機会にぜひふるさと徳島を再発見してみてください。

2005年10月22日(土)～11月27日(日)

一般200円、高校・大学生100円、小・中学生50円

※学校教育での利用は無料

- 人 ・ 蜂須賀正氏 ・ 中川虎之助
・ モラエス ・ 岡本韋庵 ・ 酒井弥蔵
もの ・ 太布織り ・ 南海地震 ・ 農村舞台
・ 四国遍路 ・ 郷土料理・菓子
場所 ・ 吉野川 ・ 鳴門 ・ 眉山 ・ 離島
・ 思い出のランドマーク

- オープニング記念 ことしききさんば しょう 寿式三番叟
(川内北小学校人形浄瑠璃クラブ)
10/22(土) 9:30～9:45
- 記念講演会
10/23(日) 13:30～15:00
「若者と四国遍路」
瀬戸内寂聴氏(作家・徳島県立文学書道館長)
- 徳島ゆかりの民謡大会
10/30(日) 10:30～15:30
- 太布織り実演 たふ (木頭太布庵メンバー)
11/4(金) 10:00～17:00、
11/5(土) 10:00～15:00の間、適宜

- 映画上映会
11/12日(土)
14:00～15:45
『鳴門秘帖』
(長谷川一夫主演
大映1957年)



「川内北小学校 人形浄瑠璃クラブ」

埋蔵文化財総合センター10周年記念事業 「アワコウコ楽」について

徳島県立埋蔵文化財総合センターは、徳島県の歴史の解明と文化的発展に寄与することを目的に平成7年度に設立され、今年度で開館10周年を迎えています。

県教育委員会ではこれを記念し、より多くの方々に埋蔵文化財に親しんでいただく目的で開館10周年記念事業「アワコウコ楽」を行っています。「アワコウコ

楽」は、企画展示会・体験学習会などの市民参加型のイベントや遺跡・遺物の情報発信など、一年間を通して埋蔵文化財に触れ、楽しみながら学習できるようになっています。

17年度下半期には次のような行事を予定していますので、振るってご参加ください。



「体験学習(土器づくり)」

- 「あるでないで阿波一発掘された徳島の至宝」 10月11日～10月17日 (会場 そごう徳島店)
- 記念シンポジウム「文化財は地域に未来を与える」 11月3日 (会場 総合教育センター)
パネラー 俳優 苅谷俊介氏、京都教育大学 和田萃氏
文化庁 坂井秀弥氏、佐賀県教育委員会(吉野ヶ里遺跡調査事務所) 七田忠昭氏
藍住町教育委員会 重見高博氏、徳島県埋蔵文化財センター 藤川智之氏
コーディネーター 徳島県教育委員会 菅原康夫氏
- 埋蔵文化財巡回展「発掘へんろ」特別講演会 講師 作家 瀬戸内寂聴氏 他
2月26日 (会場 埋蔵文化財総合センター)

地域別学力向上フォーラム

ー21世紀を生きる子どもたちの学力を考えるー

「21世紀を生きる子どもたちの学力を考える」をテーマに、「学校教育の充実」や「家庭・地域との連携のあり方」等について話し合う地域別学力向上フォーラムを、南部約220名、西部約190名、中部約320名の参加を得て、次のとおり開催しました。

平成16年度徳島県基礎学力調査結果等の概要や「確かな学力」のとらえ方について説明の後、パネリストから子どもたちの学力にかかわる実態や課題が発表されました。

その発表を受けて、「学校教育と学力」「学力向上と保護者、家庭、地域、学校の連携」を柱に、参加者も交え具体的な方策が熱心に討議されました。



「県立総合教育センターでの学力向上フォーラム」

地 域	南 部	西 部	中 部
日 時	8月29日（月）	8月30日（火）	9月7日（水）
会 場	富岡公民館	三加茂町公民館ふれあいプラザ	徳島県立総合教育センター
参 加 者	保護者・教職員・地域の方をはじめ、学力向上に関心をもつ県民の皆さん		
コーディネーター	鳴門教育大学 教員教育国際協力センター 教授 服部 勝憲		
パネリスト	徳島県PTA連合会 中西 由佳	穴吹小・中学校PTA 仙田 和子	徳島県PTA連合会 東根みゆき
	元交通安全母の会 上浦 康子	フリーアナウンサー 安倍 久恵	藍住町国際交流協会 友滝 洋子
	徳島県教育委員会 教育長 佐藤 勉		
	阿南市教育委員会 教育長 田上 勝義	三野町教育委員会 教育長 千葉 勲	鳴門市教育委員会 教育長 古林勢一郎
	富田中学校 教諭 榎葉みつ子	市場小学校 教諭 藤本 勇二	相生小学校 教諭 岩佐 隆之
主催 ● 徳島県教育委員会・徳島県市町村教育委員会連合会 主管 ● 徳島県立総合教育センター			

四国ジュニア環境サミット

8月23日、四国4県から小・中・高等学校38校の代表が、県立佐那河内いきものふれあいの里に集まり、「第2回四国ジュニア環境サミット」が開催されました。

23日は、佐那河内周辺に生息する生き物との触れ合いやスライド等での学習、宿泊所での交流会、24日は、連携協力校38校による発表、鳴門教育大学の近森助教授による記念講演が行われました。

2日間のサミットを通じて、4県から一般参加者を含むのべ375名の参加があり、環境問題について真剣に考え実践する同じ仲間として、交流を深めることができました。



「政友小学校のポスターセッション」



「いきものふれあいの里での現地研修」

次長室より



次長 山川 正雄

「勝瑞城館跡」発掘調査が進んでいます。館の主は、三好長慶を支えた弟の義賢と推定されています。長慶は三野町出身で、管領細川家の重臣でありましたが、堺の経済力を握り、河内や大和、丹波に転戦、やがて、幕政の実権を掌握し、三好政権を誕生させました。名君と謳われる一方、連歌を能くし一級の教養人でもありました。文化による内需で経済を成長させようとしたともいわれています。作家の重門冬二さんが、長慶について、「足利將軍家には民衆のニーズに応える力がなかった」ので「阿波を変革して、ここで得た成果を国政に投入したいと思った」旨を講演で述べられています。最近、長慶に関する本を何冊か読み、その壮大な理念と生き様に触れ、喫緊の課題である教育改革においても、全国から「徳島こそ」と言われる「オンリーワン徳島」を実現できればと思いました。

シリーズ 徳島再発見 身近な文化財

はしくらし 箸蔵寺

徳島県三好郡池田町州津蔵谷1006ほか

金毘羅奥の院、箸蔵寺は、天長5(828)年の創建といわれ、箸蔵山中腹より山頂にかけて広大な寺域を有しています。文政9(1826)年にすべ



「箸蔵寺本殿」

てを焼失。現在の建物の多くは江戸末期のものです。

本殿と護摩殿は傾斜地を意図的に利用した複雑な構成と特異な造形が特色です。また、高度な技法を駆使した彫物が多用され、四国における江戸末期を代表する建築のひとつです。

平成16年、本殿、護摩殿、方丈、薬師堂、鐘楼堂、天神社本殿の6棟が国指定重要文化財に、翌年、観音堂(大正9年に徳島市清水寺本堂を移築した江戸初期の建築)が県指定有形文化財になっています。

徳島道井川・池田ICから車で5分。ロープウェイも整備され、雄大な景色と壮麗な建物群が楽しめます。

●県教育委員長に

ひびのとしゆき 日比野敏行氏



7月29日の教育委員会において、委員長に日比野敏行委員が選出されました。山下景子委員長の委員としての任期満了によるものです。

任期は、平成17年8月4日から平成18年8月3日までです。

【略歴】

京都大学医学部卒業。昭和44年医療法人日比野病院副院長、昭和61年から同院長。徳島県医師会常任理事、徳島県衛生検査精度管理委員会委員、徳島県健康対策審議会委員等を歴任し、平成14年より徳島県医師会副会長。

●新教育委員に

むらさわ ふみえ 村澤 普惠氏



山下景子委員の任期満了に伴い、新教育委員に村澤普惠氏が8月8日付けで就任しました。

【略歴】

米国ボストン大学大学院修了。日本放送協会ワシントン支局リサーチャー、ジャパンネットワークグループ(株)広報課長、(株)テレビ朝日CNN制作室ディレクターを経て、現在フリーアナウンサー。平成13年より(財)徳島県国際交流協会非常勤特別職。

『教育ふれあい懇談会』を開催しました

県の教育委員がさまざまな人と意見を交わす、『教育ふれあい懇談会』が、7月29日、県庁で開催されました。今回はじめて高校生(生徒会役員10名)と懇談し、「魅力ある学校にするための取り組み」について活発な意見交換が行われました。



「県庁10階 大会議室にて」

皆様からのご意見、ご感想をお寄せ下さい。

E-mail : kyouikusomuka@pref.tokushima.lg.jp

編集／徳島県教育委員会教育総務課

徳島市万代町1丁目1 TEL (088) 621-3181